

急性期における病室環境に今後求められること

—米国の先進事例を参考に—

Michelle McCleerey ヒルロム社

パーシェントフロー部門 代表

患者が不必要に長期間入院していることは患者と医療スタッフの双方に不利益をもたらすものである。入院期間を成功裏に短くするために、ケアの質を改善することは不可欠であるが、ケアの質を改善しないまま入院期間を短縮するよう試みることは、再入院や長期化または追加のケアが必要となってしまう、治療にかかるコストを押し上げる方向に働く。

ケアの質は、合併症・床ずれ・ヒヤリハット等を防ぎながら患者の治癒と自立を促進する能力にかかっている。これを達成するために、米国の病院では、医療スタッフ、治療プロセス、そして技術を組み合わせたアプローチを実践している。特に最良のケアを提供するために、教育を受けて熟練した医療スタッフにより、ヘルスケア業界の最高の技術と科学的根拠に基づく医療とをうまく結びつける必要がある。

本プレゼンテーションは、米国において、治療プロセスを効果的にし、治療の成果を改善して入院日数を短縮させ病院の収支を改善する技術に焦点を当てている。また、急性期患者の容態急変に対応可能な病室など、ケアの質を高め患者の治癒を促す先進的な病室の設計にも言及する。さらに、最も進んだ患者用ベッドの技術の概要についても触れている。新しいハイテクなベッドシステムは、患者の使用するベッドポジションを院内 IT システムに送ることが可能で、離床センサの情報やベッドのキャスターロックがされているか等、ベッド周りの安全性に関する情報も医療スタッフに通知することができる。また、排痰処理、床ずれを予防する体圧分散、医療スタッフが患者の身体を動かす際に生じるケガを防ぎつつ患者の自立性を促進するなどの機能も備えている。